

『みさと学』の進展

～継続した学びが花開くとき～

『みさと学』については、拙稿No.17で述べましたが、継続した活動が脚光を浴びる瞬間があります。本稿では、そんな事例をいくつか紹介させていただきます。これからの『みさと学』の更なる発展のエネルギーにしていだけたらと思います。

まず、初めに紹介するのは、令和8年9月15日に行われたあるイベントでの出来事です。その日、歌舞伎役者の十三代目市川團十郎白猿の襲名披露の舞台裏を描いたドキュメンタリー映画『襲名』の特別先行試写会が本県のハイランドリゾートホテルで行われました。この映画は、国内上映に先駆けて、ベネチア国際映画祭のアウト・オブ・コンペティション部門に出品され、日本初の最優秀作品賞を受賞しています。

その先行試写会のイベントに、本町の上野小学校の6年生児童が招待されたのです。市川團十郎家発祥の地として、市川三郷町の上野小学校の6年生が昨年、『みさと学』の一環として團十郎の研究をしました。すばらしい成果物が出来上がり、本町役場ロビーにも展示していただきました。その作品を團十郎さん本人にも見ていただきたいと、学校で團十郎事務所に送付したところ、なんとご本人がそれを手にして、褒めていただいたとのこと。そのようなこともあり、主催者が本イベントに児童を招待し、團十郎本人と直接舞台上で交流するという、夢のような貴重な体験が実現したのです。

その時の様子は、NHK ニュースや山梨日日新聞の一面にも大きく取り上げていただきました。上映に先立って、團十郎本人と、お子様の新之助さんが

登壇して、映画にまつわるお話を聞かせていただきました。そして最後に、上野小学校6年生全員が登壇して、團十郎さん親子と直接お話を交わすという素晴らしい場面が訪れました。子供たちの素直なコメントや質問に、優しく対応してくれた團十郎さんと新之助さん親子の笑顔がとても印象的でした。その場で参観していた私はとても誇らしい気持ちでした。招待されていた本町の遠藤浩町長も同じ思いだったのではないのでしょうか。

帰校後、児童からは、「写真で見たことがある本物が目の前にいることがすごかったです。」「本物は違う。誇らしい気持ちにあふれた。これまでの学習が報われた瞬間だった。」「今まで、歌舞伎を調べてきてよかったと思いました。」「映画を観て、もっと調べたいことが増えて、これからも楽しみです。」「市川三郷町の知名度は上がったと思う。そして、これをきっかけに本町の未来は良くなると思う。」などの感想が寄せられました。

これらの感想の中で特筆すべきは、『みさと学』による明確な学びがあったことです。町のことを誇らしく思えたこと、これからももっと調べたいと思ったことなど、『みさと学』の学びが、その目的に向かって進んでいるということがよく分かります。

次に紹介するのは、このイベントの4日後に、やはり同じ新聞紙上に大きく取り上げられた、本町の大塚小学校による、『大塚にんじんの栽培、実験』に関する記事です。

大塚にんじんは本町の特産品であり、これを大塚小学校では全校で育てています。とりわけ、今年は6年生が、学校の畑を使って実験栽培を続けていて、地域の特産品について学びを深めています。

大塚にんじんは育てるのが難しく、「ふつうの土

では作れないのか」という児童の疑問から、学校の畑で3種類の土を使って実験栽培をしていることが新聞紙上で紹介されました。「町の特産品を軸に地域への理解を深める学習にも取り組む」という目的ももっており、『みさと学』の学びが着実に深まっていることがうかがえます。うれしい限りです。

次に紹介するのは、市川南小学校で例年行われている『ファミリー・ワールド』という催しです。これは児童が研究したり学習したりしたことを、地域の人たちに向けて公開するという伝統的な行事です。この行事の特徴は、学年ごとにブースを作って発表する点にあります。これによって、発達段階に応じた発表を児童が主役になってできることになります。低学年での自作の道具を使ってのゲームなどを始め、学年ごとに、『みさと学』で学んだ研究成果をブースを訪れた人たちに、わかりやすく発表してくれます。「探究的な学び」は、研究経過や成果物だけでなく、発表する力も重要であるので、そのような視点でもすぐれた取組になっています。

私は毎年、招待していただいておりますが、今年度は11月6日に行われる予定ですので楽しみにしています。ちなみに、昨年度は、『伝統の市川南小学校ファミリーワールド開催～「みさと学」の一環として学習活動（総合学習・生活科など）の成果を発表！～』と銘打って開催されました。各学年の発表タイトルは次のとおりでした。「1年生：あきとなかよし」、「2年生：にこにこ2年生ワールド」、「3年生：紙の王国」、「4年生：防災研究所」、「5年生：SDG's & 福祉」、「6年生：市川三郷町歴史ライブラリ」。どれもとても楽しく、また勉強になる発表でした。

最後の紹介は、市川中学校の1年生による、「地

域めぐり」の一環として行われる『企業訪問』です。見学だけでなく、そこで学んだことをもとにして新たな商品や企画等を生徒が考え、コンセプトシートにまとめるという活動です。完成したシートを役場ロビーにも展示してもらい、町民の方々にも広く見ていただく機会となっています。生徒の純粋な発想やアイデアにあふれ、とても楽しくワクワクするような内容ばかりです。「地域を知り、自らをみつめ、自らの生き方を考える」という活動である『みさと学』の一環として行われる、とても有意義な活動です。また、本町の中学2年生は、これから11月に『職場体験活動』を行いますので、そこにつながっていく貴重な活動にもなっています。

紹介は以上ですが、町内全ての小中学校において、それぞれ工夫された『みさと学』が、「探究的な学び」として展開されています。この活動を支えているのは、当然ながら教師の適切な支援です。子供たちの自主性を大切にしながら、「探究的な学び」につながるよう工夫しながら指導していただいている先生方のご努力と研究心に感謝しています。

本町の子供たちが、ふるさとに愛着と誇りを持って、夢と希望を胸に未来を切り拓いていくことができますように、さらなる深い学びが展開されることを期待しています。

(市川三郷町教育長 渡井 渡)

